

ペンギンの会 ニュース

No.36 2018.5



ペンギンを支えてくださっている皆さん、いかがお過ごしでしょうか？厳しい冬を何とか乗り切り、今年も花見に参加することができました。今年は植物園でした。ほかの桜が散ってしまっている中、しだれ桜が残ってくれていて、近くで見ることができ、心に焼き付けてきました。チューリップも満開で、鮮やかなレッドにいろいろ思いをはせ、しばし癒されました。参加者は車いす利用者が9人とそれぞれの介護者でした。各自ばらばらに好きなところを散策し、笑顔いっぱいの花見で、とても気持ちよかったです。

先の3.11には「東日本大震災・福島原発事故および熊本地震の被災「障害」者支援街頭カンパ」を行いました。今回は3月11日当日に行えたので、メンバーの呼びかけで地震の起きた時刻に被災地の方を向き、みんなで黙祷を捧げることができました。震災から丸7年経ちましたが、「風化させな

い」という意思を新たにできた時間でした。

本当に冷え込みがきつく、厳しい3時間でしたが、いつものように声を出し、ビラをまき、アピールをして、何とか終わることができました。参加して下さった30数名の皆さんに心から感謝します。JCILの皆さん、寒い中いつもありがとうございます。障害を持つ私たちが被災地の状況を伝えていくことが

大事だと思っていますので、これからも一緒に闘ってくださいね。よろしくお願いします。

ペンギンの会もいろいろとありますが、なんとかやっています。私たち「障害」者の日常は、「健常」者が思うほどたやすいものではありません。重度になるほど、プライバシーもなく、一人でいられる時間すらほとんどないのですから。福祉が軽視されていく一方の社会の中で、本当に生きづらさを感じることだらけです。

最近ペンギンの会議でも、65歳から介護保険に移行させられる問題について話し合っています。介護保険を利用しなくても、今まで通りのサービスを受けられるように、交渉していかなければと思います。今までのように自由を得ようと思うなら、それなりの覚悟は必要だと思います。自己の主張をどれだけはっきり伝えていくことができるのか、そのためにどれだけのエネ

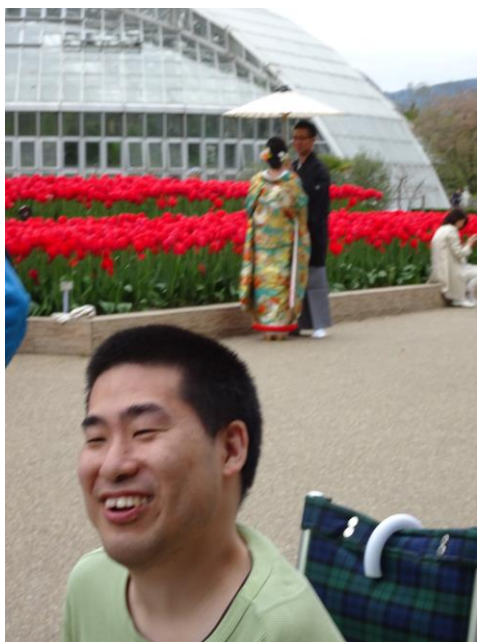
ルギーをまた使わなければならないのか…。私もできることなら穏やかに暮らしていきたいですが、必要なときにはやり抜きます。それがペンギンのやり方でしたから。

支えてくださっている皆さんも、それぞれの場で大変なことと思います。どうかなんとか生き抜いていてください。私たちも一步一步前に進んでいきます。

これからもペンギンの会をよろしくお願い致します。



李清美



植物園のお花見に来ていろいろな花が見れてとも楽しかったです。

桜は散ってしまっていて残念でしたが、まだ枝垂れ桜があったのでよかったです。

また機会があればみんなでワイワイして見にいきたいです。

東純之介

「4／23～26 沖縄に行ってきました」

繁周作・朋子

私達にとっては、2015年のカタンナーパの平和研修旅行以来、三度目の沖縄です。

今回はペンギンを通じてお知り合いになった福島の白石さんと大阪の古井さんをお誘いして私達夫婦と合わせて電動車椅子4人+介助者4人=計8人で行きました。

辺野古で「電動車椅子で座り込みに参加すれば排除作業する機動隊に少しでも余計に人手と手間と時間を費やすのではないかと、そうなれば「建設を例え一分でも一秒でも遅らせたい」という想いで「毎日毎日、新基地建設反対運動をされている皆さんに少しでもお役に立てるのではないかと」という目論見でした。

そもそも私達が辺野古に行く理由は何より「戦争や戦争に一步でも近づく事に反対するため」です。

障害者にとって戦争は即「生存権」の否定に繋がります。戦争になれば誰もが大変な状況に陥りますが、障害者をはじめ子供・女性・傷病者など弱者ほどより深刻な状況におかれ酷い目にあいます。先ず「障害者福祉」は一切否定され人間らしい生活ができなくなりますし最悪の場合「命」までも脅かされる事は歴史が証明しています。

その最も極端な実例がナチスドイツによる「T4計画」です。「T4計画」とは障害者の虐殺計画でした。しかも、その目的は

ユダヤ人大虐殺に向けて「どうすれば出来るだけ多くの人間を出来るだけ短時間に殺せるか」を研究する為の実験でした。

私達は今後とも「障害者の命を守る」という観点から、沖縄に限らず「戦争や戦争に一步でも近づく事柄」や「優生思想に基づく言動」に反対し、また「障害者防災」に力を尽くしていきたいと考えています。



<1日目>

レンタカーは満杯

ハイエースのリフト付きワゴンでしたが「8人+普通型電動と簡易電動を各2台+各自の手荷物を積み込めるか？」事前にレンタカー会社に問い合わせましたが「かなり無理がある。仮に積めたとしても安全性と快適性は保証できない」との回答でした。

それでも那覇空港での試行錯誤の結果、普通型電動は古井さん・白石さんの二人が座ったまま乗込み、簡易電動は折畳んで積み込み、周作・朋子の二人は介助者と共に座席に座り、それらに加えて各自の手荷物を押し込むように積み込んで、かなり窮屈ながらもなんとか収まりました。

宿泊はリゾートホテル「カヌチャベイ」

過去2回は民宿や民家の離れなど安宿ばかりで泊まっていましたが、今回は古井さんの定宿であるカヌチャベイホテルに3泊しました。

欧米風のリゾートホテルで一応バリアフリー対応の身障者用客室もありました。だけど広大な敷地内を移動するカートやゴルフ場まで備えたこのホテルに似合わず身障者用客室はここだけで、2部屋続きの仕様になっているので古井さんと白石さんがそれぞれの介護者との部屋を利用されましたが、部屋に付いているバリアフリーのトイレや浴室は一つしかなく順番待ちをしなければならないお粗末さで、「正に障害者にとってはまだまだ不便なことの多い一般社会の縮図のようだね。」と話していました。

夜はお決まりの(?)飲み会



一日目の夜は古井さんの身障者用客室で夕食を兼ねての飲み会で、関西青い芝の成り立ちなどの話題で超盛り上がりしました。

当然ながら3夜連続でやりましたが、古井さん・白石さんを中心に障害者自身のことや介助者についてなど「流石は大御所！」と思わせるお言葉ばかりで、ペンギンに入ってから約5年になりますが「まだまだ知識も経験も足りないこと」を痛感すると共に、次のステップに向けてのヒントをもらった気がします。

日々の生活の中で感じた差別や不条理をどれだけ自分の気持ちに素直に自分の言葉で表現できるかを、今以上に注意深くやってみることが大事だと思ったし、「そのヒントをどれだけ活かせるかどうかは今後の自分次第だな」と思っています。

<2日目>

初めての座り込み

沖縄に過去二度訪れた時は、辺野古でも高江でも、なんだかんだの理由で座り込みによる抗議行動はなく私的には不完全燃焼のまま帰って来ました。

しかし今回は折しも「辺野古ゲート前連続6日間500人集中行動週間」と重なり、その2日目のこの日も700人近くの人が集まり、座り込みをしました。

私達も午前8時からの抗議行動に間に合うように、辺野古新基地建設中の米軍キャンプ・シュワブゲート前に行くと、すぐに座り込みが始まり、私達も参加しました。

私と妻は簡易電動で座り込みの最前列にいたので、早々に排除されました。

機動隊員から「車椅子ごと移動しますが良いですか？」と思いのほか丁寧な口調で何度も聞くので、つい「勝手にどうぞ」と答えてしまったら、すぐに4人がかりでお御輿されて排除され、座り込みから排除された他の反対派市民とともにゲート脇の歩道に移動されてしまいました。

ちなみに警察官といえども「本人の同意なしに移動させることは違法行為になる」らしく、『どうぞ』と言ってしまふと同意したことになり機動隊の違法行為にならないので抗議活動にもならない」そうです(^.^)

警察側が排除した強制排除された一部市民を拘束

後から知ったことですが、この日「強排

除された一部市民をゲート脇のエンジンをかけっぱなしで排気ガスをまき散らしている警察の大型バスに囲まれた空間に囲い込み、4時間にわたって拘束したらしく、逮捕も拘留手続きもなしで市民を拘束するなんて完全に違法行為！その聞きしに勝る酷さに唖然としました。

午後の座り込み

更に午後の座り込みにも参加し、この時はすぐに排除されないために妻と二人で座り込みのほぼ中央に陣取りました。その甲斐あって座り込みの最後まで排除されず居残り、一部始終を見ることが出来ました。

障害者は排除からも排除！？

ただ、上に書いた通り。私達も初日の午前中は他の反対派市民とともにゲート脇の歩道に移動させられたのですが、囲いの中には入れられず、しばらくして「ここはまた多くの人で混雑するから」と他の排除した人々から離され、更にゲートから離れた所に移動させられたのです。同じように座り込みに参加しているにも関わらず、どういう理由かはよくわからないまま、障害者は排除の場所からもまた排除されたのです。



そして午後の座り込みで私が注視していたのは「古井さんの重量級の電動車椅子を機動隊がどうやって排除するか」でした。午前中は私が早々に排除され遠くに移動させられたので、見れなかったからです。午前中の座り込みで「機動隊員が古井さんを排除する時にかなり顔を歪めていた」と聞いていたからです…(^_^)

古井さんが排除される番になり機動隊数人が古井さんを囲み「いよいよだな！」と思った次の瞬間信じられない事が起こりました。機動隊は古井さんを囲んで何か言っていました。後から古井さんに聞いたところでは、機動隊の一人が四方八方を見ながら「この人の保護者いませんか！？」と大声で怒鳴るように言ったとのことでした。

「よりによって（もう大人になった子どもさんが居る）古井さんにその言葉を浴びせるか！？」と呆れ、まったく失礼な話で「障害者を子供扱いするとはバカにするのも程がある！」と心底腹が立ちました。



そして更に信じられないことに、そのまま排除もせず道路の真ん中に放置したまま無視して、残った私達座り込みしている集

団の包囲を狭めたのでした。その包囲で私達からは古井さんが見えなくなり、その後何がどうなったかは分かりませんでした。

（抗議活動が終わってから、古井さんは「私が保護者やっちゅうに！」と苦笑いされていましたが、その眼光は鋭く心中をお察しすると「その後何がどうなったか」を聞くのも躊躇しました）。

つまり古井さんも「保護者が必要な存在として扱われた上に、排除からも排除された」訳で、これまた「まったくもって許し難い処遇」に他ならないと思います。

午後の座り込みの最後

さて、私達の座り込みの方はその後もしばらく機動隊による排除行為が続いていましたが、最後の数十人になった時点で突然ピタッと排除行為が止み周りを機動隊に囲まれました。多分もう排除開始から1時間以上たち4時過ぎ頃になっていたと思います。

その時点では「午前中に不当拘束があったこと」は知らなかった事もあり、またトイレなどの理由で立ち去る事も自由に出来たので、それ程大きな不安はありませんでしたし、「一休みしてまた排除行為が始まるのかな？」くらいに思っていました。

でも実はその頃、反対派市民のリーダーの山城博治さん他が警察側と交渉して下さっていて、山城博治さんが「日も傾きはじめたし、今日のところはそのまま互いに解散してはどうか」と説得したところ、最初は難色を示していた警察側も最後は折れて

合意し、機動隊が撤退し、私達も解散して、この日の座り込みは終了しました。

三時間を超える座り込みは私も流石に疲れましたが、私は車椅子の分厚いクッションの上に座っていたので特に何処かが痛むとかはありませんでしたが、他の皆さんは私よりもかなり高齢と見受けられる方も多く、しかもアスファルトの上にずっと座られていたので「かなりお疲れだっただろうな」と思いました。

ちなみに現地新聞の報道によると、この日機動隊は前日の倍近い約200人で座り込む人々を排除したそうですが、これにより工事車両約100台の資材搬入が1時間半遅れたそうです。

「たった1時間半遅らせるのために？」と思われる方も少なくないでしょうが、最初にした通りこの日は反対派市民が700人近く集まったのでこれだけ遅らせることが出来ましたが、普段はずっと少なく、数十人しか集まらないこともあるらしく、そういう日は10分程度で終わるそうです。それでも反対派市民は工事がある日は欠かさず座り込みによる反対行動をしておられる。その苦悩は私達の想像を絶するものなのでしょう。

(周作)



<3日目>

この日だけは全員ホテルのレストランで朝食を取った関係もあり出発が遅くなり、辺野古ゲート前に着いた時、午前中の座り込みは終わりかけていました。

またも違法拘束

が、しかし、この日も警察側が強制排除した一部市民を警察の大型車両に囲まれた空間に拘束していました。更に前日はトイレに行くことは自由にできましたが、この日はそれも制約され、トイレを理由に拘束から逃れさすまいと「トイレに行って帰ってきた人数しか次の人をトイレに行かせなかった」そうです。

逮捕もしていない市民を拘束するだけでも違法行為なのに「意図的に排気ガスを浴びせかけ、トイレに行くことも制約する」なんて拷問だし、官憲横暴としか言いようがないと思います。

午後の座り込みに参加 ～「戦争は障害者を増やすしね！」??!

午後の座り込みが始まってからもいつものように誰かがアピールしたり、歌を唄ったりしながら過ごします。

前日に機動隊員から「保護者はいませんか？」と言われたり、反対派の救護班の人からも「あなたそんなところにいると危険だから、こちらの救護所に来たほうがいいよ。」と声をかけられ、「何もわかってない、めっちゃ笑えるやろ?!」と言いながら憤慨していた古井さんは、座り込んでる皆の前に出て「戦争になったら障害者は真っ先に生存権を奪われる立場です。一番に抹殺されるのは障害者だということは、かつてナチスの「T4計画」でも知られている通りです。だから私たちはこの座り込みに参加しているのです。」と、前半の最初に周作が書いたような内容のアピールをされました。

その時、まるで古井さんの言葉に同調するかのような雰囲気です。座り込みの人から「戦争は障害者を増やすしね！」という言葉が挙がりました。

私は驚いて、思わず「違う!!」とだけしかその場では言えませんでした。私がもっと言いたかったのは「古井さんが言っているのは、『障害者が増えるからアカン』ということではない。戦争になったら優生思想が今よりももっと極端な形で台頭して、戦うのに役に立つかどうか生きて良いかどうかの基準になって、障害者に限らず役立たない人間は真っ先に殺されることになるということや。」でしたが、機動隊と対峙する座り込みの場で反対派同士が意見の食い

違いで対立しているように見せるのは良くないので、それ以上は言えませんでした。

座り込みの一人から挙げたその言葉はたぶん全く悪気なく発せられたものだったのだろうと思うのですが、健常者によくありがちな障害を肯定しない言葉だっただけに、「またここでもか…」という残念な気分にはなりました。



< 4 日目 >

「沖縄愛楽園」訪問

今回、同行メンバーの希望で座り込み以外で訪問したのは1日目の「ひめゆり記念館」と4日目の「沖縄愛楽園」でした。「ひめゆり記念館」の訪問は、私は2015年に次いで2回目だったので、入館間もなく気が遠くなりかかった前回よりは今回はじっくりと時間をかけて手記などを閲覧でき、沖縄戦の悲惨さを更に学ぶことができました。ということで詳細な報告はここでは割愛させていただきます。

最終日にハンセン病回復者のための国立療養所「沖縄愛楽園」の中にある交流会館を訪れ、基地反対派で土木技術者の奥間さんより紹介をいただいた学芸員の方から詳しい説明を受けながら、園内に残っている戦時中に入所者たちによって掘られた「早田壕」、亡くなった方たちを祀る慰霊塔「平安之苑」、「声なき子供たちの碑」、交流館内の資料展示、被弾跡のある壁などを見学することができました。

国頭愛楽園として1938年に療養所開園、特に1944年3月以降、日本軍が沖縄入りしてからは、それまで療養所に入らずに沖縄各地に隠れ住んでいた在宅の患者たちが衆目に晒されながら、軍や警察によってトラックに乘せられ強制的な収容が徹底的に行なわれました。

園内では早田園長の指示により入所者自らが貝塚のように貝の欠片が積み重なったような棘々した地層に横穴式の壕を掘られ、病で手足の末端に神経障害を起こしている患者たちは、スコップをしっかりと握れ



なく、薬も十分でないため怪我を悪化させる人も多かったそうです。食料も全く不足しているので一杯のお粥をもらうために無理を押して作業をせざるを得なかったとのこと。

結果、爆撃による死者は一人だったが、栄養失調や壕内の不衛生な環境やマラリアなどにより300名近くの方が終戦直後までに亡くなったそうです。資料館に展示してあった文章に「入所者たちは、自ら体を傷めて掘った壕の土の上で、湿りきった、カビの生えたムシロの冷たさを背中に負いながら、虫けらのようにひっそりと死んでいました。」とあって胸がつまりました。

その亡くなった方々の中で、後年にでも平和祈念公園の「平和の礎」に名前を刻んでもらうことのできた人は未だに10名にも満たないそうです。

1943年にはアメリカで「プロミン」という薬の効果が報告され、1949年からは錠剤の薬も使われるようになり、非常に感染力は弱く、万が一感染したとしても半年から2年の服薬で完治する病気でありながら、日本では隔離政策は1996年まで90年間続き

ました。2001年に漸く、熊本地裁で「隔離政策は憲法違反」の判決がでました。

長年の根強い差別によって出身地を追われたり、親族との関係を絶って、名前を変えて、断種や堕胎を強要された過去があり、今でも亡くなってからも収容されたままの生活を送らざるを得ない回復者の方々が少なくないことを想うと、慰霊塔「平安之苑」の前で手を合わせたとき、差別を受けたまま亡くなった方々の無念さが迫ってきました。

障害者である私たちには出生前診断とか強制不妊手術とか、過去にも今でも非常に身近な問題があり、相模原やまゆり園の事件のように名前も明かされず、殺されても無かった存在のように扱われてしまうかもしれない現実が自分にも迫っていることを、ここでもまたあらためて再認識させてもらいました。

今回の沖縄でもまた同行の皆さんとともに大変充実した体験ができたこと感謝しています。

(朋子)



ペンギンニュース36号、ここまでお読み頂きまして、ありがとうございます。 ユグチです。

以下のユグチの記事は、ペンギンの会ホームページのバックナンバー34（2017年5月号）のつづきになります。

三宅さん追悼関連で約1年のブランクになりましたが、ユグチのペンギンでの20年間をふり返る連載に、またしばしのおつき合いを願います。

“あの人物 ♀” こと、高橋公子さんについて対面を果たし、“ガツンとかまされた” エピソードまでをお読み頂きましたが、そのあたりをもう少し詳しくふり返らせてください。それでは…。

別に正式なのはつけてなかったのですが、もう連載も四回目なので、題名、これにさせていただきます。

筋璽主汗（キンジス・ハーン）自伝 その四

『筋璽主汗（キンジス・ハーン） ついにペンギンの会と出会い“あの人物 ♀”に“ガツンとかまされ”そして“完全に度肝を抜かれる” こと』

ユグチマコト

高橋公子さんに初めてお目にかかるべく、かつて東福寺門前にあった「共同作業所・ペンギンの家」（当時）を訪ねたのは、紅葉狩りの人出たけなわの晩秋、 1996年

11月末のことでした。

あの日はユグチが先に行って、当時ペンギンで専従をしていた公子さんの介護の人と待っていて、あとから公子さんが自動車を運転して来られることになっていました。

公子さんがペンギンの近くに車を止めると、介護者は後部座席に格納された車イスを地面に降ろし、ドアの開いた運転座席に横着けします。そして車イスに公子さんが移乗する—という流れを決めておられました（軽度障害だったユグチもお手伝いしたことがあります）。

少し脱線しますが、運転の際、介護者がいない時は、公子さんは乗車の作業をなんと一人でやっておられたということです。

公子さんには先天性骨形成不全という、生まれつき骨が脆くて骨折が起きやすい障害がありました。そんな中での危険な単独の作業。

自動車に乗る場合、公子さんは車イスから後部座席に、腕だけの匍匐動作で身体のみ移乗させ、そのあと身体の向きを変え、地面に残った車イスをたたんで後部座席の下に引っ張り上げたのちにドアを閉め、それから前の運転席まで移乗していたそうです。（これは直接、伺ったことがあります）

単独での降車の話は聞いた記憶がありませんが、おそらく上記とは逆の手順、もしくは別の方法で、例えば通りがかりの人に手助けを募るなどして後部座席から車イスに

移乗されていたのでしょうか。

ユグチはこの一年あまり、ペンギンニュースで三宅さんや公子さんの行動力に圧倒されたエピソードばかり書いてきましたが、何かしら“時代の変化”のようなものも感じます。

公子さんや三宅さんの青年期…“青い芝”やら何やらでバリバリだった時期…現在のような障害者の自立を支援する制度や仕組みなどまだまだで、不自由さや抑圧に取りまかれた状況への反発から、あのバイタリティーが形成されたのかな…と。

現在では往時とは比べるまでもない水準で障害者が地域で生活できるようになっている中、ユグチは公子さんたちのような強いバイタリティーでもって自立生活を展開できているのか？と考えると「う～ん、どうなんかな～」とってしまいます。

話は元に戻り、その時も電話を受けた介護者が自動車の駐車スペースまで公子さんを出迎えに行くのにユグチも同行しました。公子さんに初めてお目にかかったのはその時でした。

ペンギンの家の中で、自分のこれまでの生活の振り返りなどを話しているうちに、当時のユグチをめぐる自立に踏み切れない状況や、障害受容や自覚の無さ、進行性障害の現実を絡めた将来への（問題意識の浅い）見通し諸々…に対して、公子さんのズバズ

バ突っ込んだ質問が始まりました。

前々号34号の13～14ページに掲載されている公子さんの言葉をここでもう一度。

『そんな歳になるまで、あなた今まで何をしてたのよ!?』

（進行性の障害ながら、自分の脚で歩いていたユグチに向かって）

『よく見ると、あなた脚がすごく細いじゃないの!? 歩けなくなったらどうするつもりなのよ!?』

『一人になったらあなたどうして生きていくつもりなのよ!? 親はあなたより先に死んでいくのよ!』

このとき横で聞いていた介護者は、こう思ってヒヤヒヤしていたそうです。

「ちょっと公子さん、初対面の人に、それもこの人（ユグチ）の障害のことで、ここまでつつこんだ質問して大丈夫なの!? この人いきなりこんなこと言われたら、もう二度と来なくなってしまうんじゃないの?」

事実、公子さんはこんなことを考えながらダメ出ししていたのです。

「こんな“頭でっかちの若い障害者”なんて、ちょっとキツイことポンポン言われたら、すぐにムッとして来なくなるわよ。もう会うこと無いんだから、言いたいだけ思いきり言っというてやったらええのよ」

この時ユグチは不思議に頭に来ることが無く、妙に“納得がいく”というか“腑に落ちた”心持ちで聞いていました。

というのも、この会話の前に、あの服装バッチリの公子さんが愛車を駆って現れ、介護者にテキパキと指示を出してペンギンへ移動し、よく見ていると、このペンギンの家はどうやら公子さんがオーナーみたいな立ち位置で運営されている…

（まさに“障害者主体”というやつです）

こうした諸々を認識した時点で、

「障害とか健常とか関係なく、なんかものすごい人に出会ってしもたんちゃうか、これ？」

と完全に気圧されていたからでした。

ましてユグチよりもずっと障害が重いのに、これだけのこと（自立生活・自動車の運転・事業所の運営 etc.）を実現されている…そんな人に自分のこれまでを思いきりダメ出しされるのは当たり前やな…と。

あと、齒に衣着せぬ物言いではありましたが、よく障害者に向けられる、

「障害に負けてちゃダメじゃないの」

「（脚が悪くても）どんどん頑張って歩きなさい」

「何もかも障害のせいにするなよ」

といった一方的かつ無理解に満ちた言葉が全くなかったこともあります。

最後にはこう言ってくれたのを憶えています。

「私だってここまでやって来れたのよ。（公

子さんより障害の軽い）あなたにこれぐらいのことができないはずがないじゃないの!」

そして公子さんが所持している、手動のアクセルレバーとハンドルグリップで運転する自動車免許のことを教えてもらい、免許取得に向けて動き出すことにしたのです。



公子さんに出会った日のことを整理すると、このままではいけないと思いながら自立への行動に移せていない、そしてその原因は何なのかがわからない…

例えば、ユグチが薄いガラスの壁で囲まれた部屋に閉じ込められていて、思いきり身体ごとぶつかれば外に出られるというのに、

『割れたガラスでケガしたら痛いやろか？』

とか

『割れた音で人に迷惑かからへんやろか？』

とか

『ガラスが刺さって抜けんようになるんちゃうやろか？』

などと考えて動けなくなっていたのと同じでした

そのもどかしい状態を公子さんがあの強烈な“キミコハンマー”で、そのガラスを粉々に叩き割ってくれた…ということになります。

そしてこれ以降、ユグチなりの個性でペンギンの会に関わる日々が始まりました。

1996年11月末のこの日は間違いなく、ユグチに訪れたいいくつかの人生の転機の一つとなったのです。

話は公子さんが亡くなる一年前の
2002年の夏に飛びます。

公子さんの大好きだった北海道旅行に何名かでお供した時のこと。

（35号に書いた、千歳空港で三宅さんにおちょくられた時と同じ）

すでに秋に入りつつある洞爺湖畔にて、公子さんが何か意味ありげな表情でユグチをじーっと見ておられたので、

『どうかしゃはったんですか？』

と聞くと、公子さんはため息まじりに、
『こんな子はすぐに来なくなると思ったのよ。よくここまで続いたもんだわね』
といって、今回読んでいただいている、初顔合わせの日のことを言い出されました。

あのケチョンケチョンなもの言いは、

『敢えて言ってやったのよ』

と振り返っておられました。

公子さんという人は、自分にも他人にも厳しかった人でした。

そんな人がユグチを認めるような発言をされたので、嬉しいとかいう以前に、びっくりしてしまって、さらに

『ホンマにどうかしゃはったんですか？』

と聞き直してしまったぐらいでした。

以上、前々号34からの続きを最後までお読みいただき、ありがとうございました。

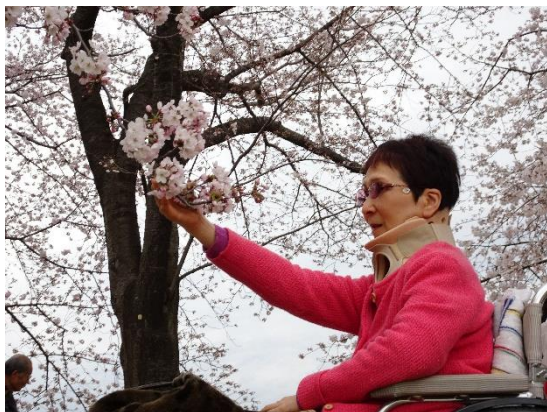


【ペンギンの会 2017 年度の行事・できごと】

★4月6日（木）

お花見

場所：淀川河川公園背割堤



★10月8日（日）

レクリエーション日帰り旅行

場所：舞鶴



★10月22日（日）

東日本大震災・熊本地震障害者救援街頭

カンパ 場所：四条河原町

（JCIL と共同で実施）

※募金額 ￥24,484-

★11月3日（金）

東九条マダンに出店

場所：元・山王小学校



★11月26日（日）

三宅さん記念企画

「走り続けた三宅ちゃん/ほなまた三宅
さん/本当にありがとう」

場所：ホテル京阪京都 光林



★3月11日（日）

東日本大震災・熊本地震障害者救援街頭

カンパ 場所：四条河原町

（JCIL と共同で実施）

※募金額 ￥63,468-

【2017 年 4 月～2018 年 3 月までペンギンの会に会費・カンパをいただいた皆様】

(敬称略・順不同)

☆月会費

小山弘 李清美 湯口真 繁朋子 繁周作 井上緑
井上正宏

計 5 万 4 千円

☆年会費

正司拓生 森岡均

計 1 万 2 千円

☆カンパ

濱頭直子 金満里 陳太一 矢野恵子 皆川夏樹
北角和恵 河内啓介 馬庭京子 河村史子 正司拓生
東真理子 藤田光恵 金光敏 岩本豊・京子
湯口憲子 杉山晶 浦辻宏昌 村上峰葉 入江泰
藤野寛 加藤正信 松野清美

計 1 6 万 8 千 9 5 0 円



総合計 2 3 万 3 千 9 5 0 円

以上の、会費・カンパをいただきました皆様、
そしてその他ご支援をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

自立障害者グループ ペンギンの会

〒612-8411

京都府京都市伏見区竹田久保町 62 番地

足立ハイツ竹田 132 号室

電話：075-755-8177 (FAX)

E メール：pengin.kai@gmail.com

ホームページ：<http://pengin-kai.jpn.org/>

facebook ページ：<https://facebook.com/pengin.kai/>

(どちらも「ペンギンの会」で検索できます)